



学校だより

横浜市立六つ川台小学校

平成27年4月30日

5月号

ホームページアドレス <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawadai/>

目標の人をもち、目標の人となる台小の子

副校長 佐藤 栄

入学式で満開だった桜も葉桜へバトンタッチした5月です。新入生が入学して1か月経ちました。副校長の私も1年生と同じく六つ川台小学校で1か月過ごしました。私は3月まで中村特別支援学校に勤務していました。前任校はとても重い障害のある児童・生徒が通う学校でした。

皆さんが障害者という言葉で思いあたるイメージは、人それぞれの経験に比例すると思います。

障害者としてヘレンケラーを思い浮かべる方も多いと思います。ヘレンケラーという名前は、「奇跡の人」という映画にもなっているので、かなり日本人にも知名度が高いのではないのでしょうか。ヘレンケラーの名前を知っている人も、彼女が生きる目標とした障害者が日本人であることは、あまり知られていません。戦前の日本人のほとんどは、彼の名前を知っていたと言われています。その人は江戸時代に生きていた全盲の国学者です。

昭和12年に来日しときヘレンケラーは講演の中で次のように話しています。

「私は特別な思いでここに来ました。いつか日本に行ってみたい。日本に行ったら必ず埼玉を訪れたい、と長い間願っていました。その夢が今日叶いました。私の人生の目標であり、辛いとき、悲しいときいつも心の支えだった人物が埼玉県出身だったのです。その方の名は塙 保己一（はなわ ほきいち）といいます」

前任校の児童の話ですが、手の指や手首が思うように動かない子でしたが、同じ上級生が肘を大きく動かして自分の意思を伝えている姿を見て憧れたのでしょう。自分も肘を動かして意思を伝えようと努力しました。いくら教員が教えても理解が進まなかったコミュニケーションの方法ですが、上級生の姿を見て努力を重ねて肘を動かして自分の意思を伝えることができるようになったのです。

さて、六つ川台小学校1年生が憧れる人、目標とする人は誰でしょうか。それは学校のことが何でも立派にできる上級生です。朝会で真っ直ぐ並ぶ上級生、おしゃべりをしないでしっかりと話を聞く上級生、掃除を一生懸命する上級生、挨拶が上手にできる上級生、下級生に優しくし接してくれる上級生は下級生たちの目標となり、憧れの対象です。

いつも朝会で、1年生の見本となる姿をほめられている上級生にたいへん期待をしています。学校だけでなく家庭や地域の人たちからもこれからますます注目されると思います。

六つ川台小学校のみなさん、よい見本をたくさん見せてください。よりよい学校になるように学校・地域も支えていきます。